

## 研究拠点 気仙沼大島漁協文庫の管理と活用

期間：2016年～

[所員] 佐野賢治 大川 啓 小熊 誠 関口博巨 安室 知

[客員研究員] 重村 力

[協力] 三笠友洋（西日本工業大学）

### 東北文化の再発掘

佐野 賢治

第4回漁業史文庫を語る会が2019年12月21日（土）午後1時半から4時まで大島公民館2階会議室で開かれ、年末の多忙な時期にもかかわらず、大島漁協文庫の会の千葉勝衛会長はじめ30余名の熱心な島民が来所、聴講した。地元の気仙沼・大島みらい創り協議会（代表・堺健氏）が開催準備や進行の世話役となり、気仙沼市、大島地区振興協議会、崎浜美和会が協力、また、河北新報社の記者も取材に訪れていた。

司会は地元大島出身の小野寺佑紀氏（本学歴史民俗資料学研究科博士課程在学）が務め、堺健氏からまず、東日本大震災からの復興の現状と課題、大島大橋の架橋後（2019年4月）の島の将来を考えるにあたって、島の歴史と民俗を学ぶことの重要性が開催趣旨として述べられた。

次いで、福島県いわき市出身の山崎祐子氏（民俗学者・俳人）が「食がつなぐ未来」と題し、自身が携わっている復興ツアーなどの活動について紹介、放射能汚染や風評被害の問題も含めながら、当地と福島県沿岸部の復興活動を「郷土食」を事例に比較しつつ、地域間の情報の共有化の必要性を説かれた。その上で、在来種である「大島カブ」の見直し、再評価が、地域の活性化に繋がると地元島民への期待を述べられた。

続いて、佐野賢治が「米と日本文化——“福田<sup>ふくてん</sup>”行事を中心に——」と題し、従来、縄文文化の系譜をひく地であると語られてきた東北地方を水田稲作の波及と仏教土着化の視点から日本、アジア文化の中で見直す話題の提供を行った。仙北地方では「お福田」行事が作神信仰や伊勢参りに関係して小正月中心に行われ、その折供えられる餅を福田餅といい、強調されることが多かった事例を糸口にその背景を論じた。大島の歴史民俗を漁業史方面ではなく、広く日本文化の中で位置づける発表となった。質疑応答の中でも、戦前まで大島でも正月に福田餅を搗き、供える習俗があった



写真1 会場風景  
(大島公民館2階会議室)



写真2 「大島カブ」の再評価を話す  
山崎祐子氏



写真3 東北地方特有の「福田」行事を  
紹介する佐野

との発言があり、島における農耕儀礼、年中行事に注目することも大事だとのとの意見が聞かれた。次の機会には、当地にも祀られるウンナン様（鰻神）を題材に柳田国男の『海上の道』ならぬ「鰻の道」とでも題し、日本の民俗文化の形成について話すことを約束して講演を終えた。

今回は、大震災被災者の移転先における交流促進を目的とする気仙沼市コミュニティ再生支援事業の助成も受けての実施だったが、会後の座談で、日本常民文化研究所の調査研究の蓄積が地域振興における基礎資料として役立っていることを聴きうれしかった。翌日は、漁協文庫の整理作業、関係者への挨拶・目録手渡し等を済ませ日程を終えた。

## 気仙沼大島漁協文庫資料の整備について

窪田 涼子

2019年12月21～22日に気仙沼大島漁協文庫において行った資料の整備作業について報告する。

昨年度、博士後期課程大学院生ボランティアの参加を得て、2泊3日の作業を計5回実施し、目録作成と資料装備（目録番号ラベル貼付）、および傷んだ資料の保全作業（中性紙厚紙による保存箱作成）を行った結果、開架資料の目録作成と装備作業はほぼ終了した。

その作業内容を受け、今回は、佐野賢治（所員）・中村慧（博士後期課程）・小野寺佑紀（博士後期課程）・窪田涼子（職員）の4名により、目録・装備作業の最終確認作業、および保全作業の進捗状況の確認を以下の通り実施した。

12月21日（土） 書架、床等の清掃を行い、併せて書庫内点検作業を実施。データロガー（温湿度記録）の電池交換、蛍光灯の取り替え作業を行った。

12月22日（日） ①昨年度作成目録と配架済の開架資料の読み合わせを実施。その結果、ラベル番号違い等のミスを数点確認。

②別置の目録未着手資料（約50点）を確認。昨年度までの作業で、複数資料を「一括資料」として目録作成していたものを再点検した結果、それぞれ別資料として目録化することとしたもの。

③資料保全作業（保存箱作成）の進捗状況の確認。保全作業が必要と考えられる資料のうち、約4割が終了、6割が未着手であることを確認。

④2018年度までに作成できた目録を、漁協文庫を語る会の大島メンバーへ手渡しした。

⑤作業用資材の確認。次回には貼付し直しの中性紙ラベルの準備が必要。保全用厚紙については在庫十分あり。

以上の点検・確認作業を行った結果、文庫の環境状態は良好であったが、今後、データロガーの電池交換については頻繁に行う手段を検討する必要があること、前回作業での番号違い訂正作業と目録未着手資料整理については、およそ2泊3日の作業で完了と見積もられること、資料保存箱作成作業については、数名の作業員で2泊3日の日程を組んだ場合に2～3回で終了できると見積もられること、等を確認した。なお今後の作業については運営委員会・所員会議にて検討する必要がある。

### ■ 2019年度の活動

○第4回漁業史文庫を語る会「米と日本文化——“福田（ふくでん）”行事を中心に——」講演および研究拠点・気仙沼大島漁協文庫の資料整理 2019年12月21日・22日 佐野賢治・窪田涼子、小野寺佑紀・中村慧（院生）